

大槻 和 夫 編

## 『国語教育学』

本書は、大学において小学校国語教材研究・国語科教育法を学び、将来国語教師を目指す学生、そして、小学校における国語科教育を全面的に理解しておきたいと考える若い教師のために書かれている。

本書の構成は以下の通りである。

まえがき／序章 国語教師への道／第1章 国語科の仕事／第2章 言語の指導／第3章 話し言葉の指導／第4章 文学作品の指導／第5章 説明文章の指導／第6章 読書生活の指導／第7章 作文の指導／第8章 国語科における評価／第9章 国語の教材研究と授業の改善

まず序章で、国語教師の持つべき心がまえとして、(1)教師自身の言語生活の向上、

(2)国語科教育についての広い深い理解、(3)国語教育実践の錬磨、の三点を掲げている。

次いで第一章で、国語科の役割を、「言語の教育」、「言語活動の教育」と確認し、第2章で言語事項の指導法を中心にした「言語の教育」としての国語科教育、そして、第3～7章で、国語科教育の指導内容領域それぞれの指導法からなる「言語活動の教育」としての国語科教育のモデルが網羅的に提示されている。

また、指導法について論述された各々の章では、本質論的な基礎づけがなされた後

で、それを踏まえた具体的な指導モデルが示されており、単なる技術的な方法論の叙述に片寄ることく、現代の国語科に内在する諸条件との関連の中で、求められるべき指導法が、体系的に考案されている。

編者がまえがきの中で述べているように、各章は比較的若い研究者によって執筆されている。そのため、読書に対して一方的に語りかけるのではなく、一つの試案を基に、国語教師を目指す、あるいは若い国語教師が、共に試行錯誤を積み重ね、よりよい国語の授業づくりを考えていく可能性を開いているように思われる。

(A5判 一九一ページ 平成二年十月発行 福村出版 二〇〇円)

(土山 和久)